



# ギリシア・ローマの美術

A. ギリシアの神殿建築：柱の形式により、3つの様式がある。

- 重厚な<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ 式
- 優美な<sup>4</sup> \_\_\_\_\_ 式
- 繊細な<sup>5</sup> \_\_\_\_\_ 式

△アテネの<sup>1</sup> \_\_\_\_\_ 神殿

：守護神アテナの神殿。ペルシア戦争後、ペリクレスが再建。

(<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 設計、<sup>3</sup> \_\_\_\_\_ 式)



コピー

B. ギリシアの彫刻：3つの様式がある。ほとんど現存せず、ローマ時代の模作が多い。

オリエンタ的な  
アルカイック様式

均整調和の古典様式

劇的、官能的な<sup>6</sup> \_\_\_\_\_ 様式



△『ランパンの騎士』



△『アテナ女神像』

(<sup>2</sup> \_\_\_\_\_ 作)



△『ミロのヴィーナス』

(ミロ島出土)



△『<sup>7</sup> \_\_\_\_\_』

(ローマ出土)



△『サモトラケのニケ』

(サモトラケ島出土)

C. ローマの公共建築。



△<sup>8</sup> \_\_\_\_\_ 街道

(ローマに通じる国道)



△<sup>9</sup> \_\_\_\_\_ 水道橋

(南フランス)



△<sup>10</sup> \_\_\_\_\_

(ローマ市内の競技場)



△<sup>11</sup> \_\_\_\_\_

(ローマ市内の万神殿)



△ ハドリアヌスの長城

(解答) 1 パルテノン 2 フェイディアス 3 ドーリア 4 イオニア 5 コリント 6 ヘレニズム

7 ラオコーン 8 アッピア 9 ガール 10 コロッセウム 11 パンテオン



# ギリシア・ローマの文学と思想

希 ギリシア人 羅 ローマ人

## ②文学 A. ギリシア文学

a. 叙事詩：前8c、ポリス形成期に成立。オリンポス12神や英雄の物語。

希<sup>1</sup> \_\_\_\_\_：トロヤ戦争を描く『<sup>2</sup>\_\_\_\_\_』、続編の『<sup>3</sup>\_\_\_\_\_』。

希<sup>4</sup> \_\_\_\_\_：神々の系譜『神統記』、農民生活をうたう教訓詩『労働と日々』。

b. 叙情詩：前7c、平民の台頭期に成立。レスボス島の女流詩人<sup>5</sup>\_\_\_\_\_、  
恋と酒の詩人アナクレオン、オリンピア賛歌のピンダロス。

c. 演劇：前5c、アテネ全盛期、国家祭祀として毎年3月のデュオニソス祭で上演。

希<sup>6</sup> \_\_\_\_\_：三大詩人①。マラトンの戦いに参戦。ペルシア戦争を舞台に『ペルシア人』、ミケーネ王の悲劇『アガ멤ノン』

希<sup>7</sup> \_\_\_\_\_：三大詩人②。ペリクレスの同僚。ペロポネソス戦争を指導。父殺しの運命とあらがう男の悲劇『オイディプス』。

希エウリピデス：三大詩人③。プロタゴラスと交流。人間をありのままに描く『王妃メデイア』『トロイヤの女』。

希<sup>8</sup> \_\_\_\_\_：喜劇詩人。現実のアテネ市民が登場。ペロポネソス戦争を風刺する『女の平和』、ソクラテスを風刺する『雲』。

B. ラテン文学：ギリシア語文献の影響を受け、共和政末期に確立。

羅<sup>9</sup> \_\_\_\_\_：元老院議員。反カエサル派。ギリシア語文献多数を翻訳。アントニウスに殺害される。『国家論』『義務論』。

羅<sup>10</sup> \_\_\_\_\_：ガリア遠征の記録『<sup>11</sup>\_\_\_\_\_』は、ラテン語の名文。ポンペイウスとの戦いの記録『内乱期』。

羅<sup>12</sup> \_\_\_\_\_：アウグストゥスに保護される。ローマ建国叙事詩『アエネイス』で帝政樹立を称える。（⇨ダンテ『神曲』）

羅ホラティウス『叙情詩集』、オヴィディウスは叙情詩『恋愛詩』により、アウグストゥスの命で黒海沿岸へ流刑される。

羅<sup>13</sup> \_\_\_\_\_：元老院議員。ゲルマン民族誌『<sup>14</sup>\_\_\_\_\_』。アウグストゥス～ネロの『年代記』で帝政を批判。

希<sup>15</sup> \_\_\_\_\_：ギリシア・ローマの比較伝記集『<sup>16</sup>\_\_\_\_\_』。（⇨シェークスピア『ジュリアス＝シーザー』）

## ②歴史

希<sup>17</sup> \_\_\_\_\_：小アジアの出身。歴史の父。物語風の『歴史』は、ペルシア戦争の記録。

希<sup>18</sup> \_\_\_\_\_：将軍としてペロポネソス戦争を指導。客観的、実証的な『歴史』の記録。

希<sup>19</sup> \_\_\_\_\_：ポエニ戦争に従軍。政体循環史観。『ローマ史』で複合政体のローマを賞賛。

羅<sup>20</sup> \_\_\_\_\_：ロムルス王からオクタウィアヌスまでの『ローマ史(ローマ建国史)』。



△エピダウロスの円形劇場

ポリビオスの政体循環論  
(ギリシア)



(ローマ)



- (解答) 1 ホメロス 2 イリアス 3 オデュッセイア 4 ヘシオドス 5 サッフォー 6 アイスキュロス 7 ソフォクレス  
8 アリストファネス 9 キケロ 10 カエサル 11 ガリア戦記 12 ウェルギリウス 13 タキトゥス 14 ゲルマニア  
15 プルタルコス 16 対比列伝 17 ヘロドトス 18 トゥキディデス 19 ポリビオス 20 リウィウス

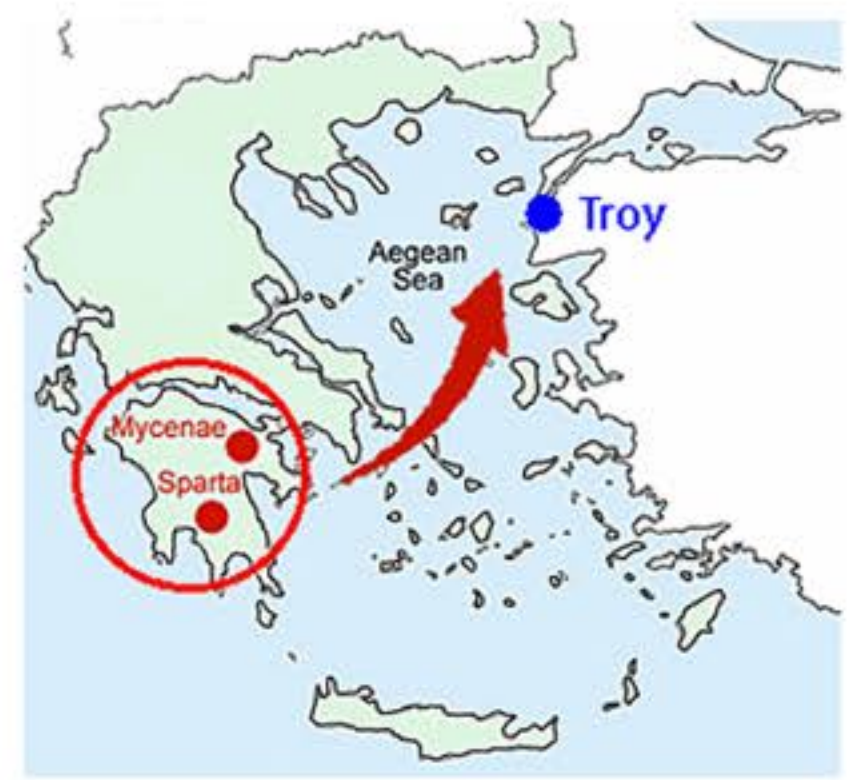


# ギリシア・ローマの文学

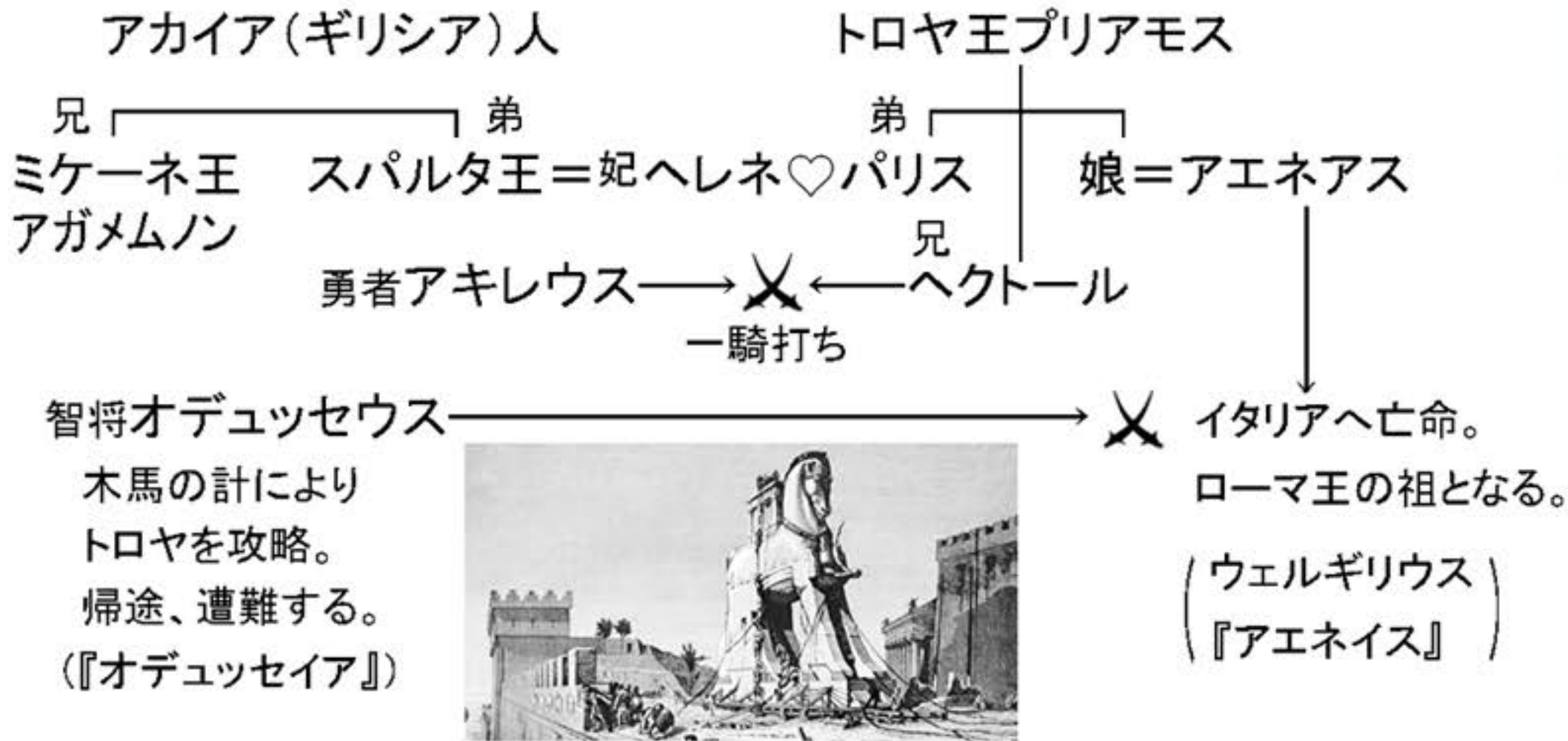
## ホメロス『イリアス』



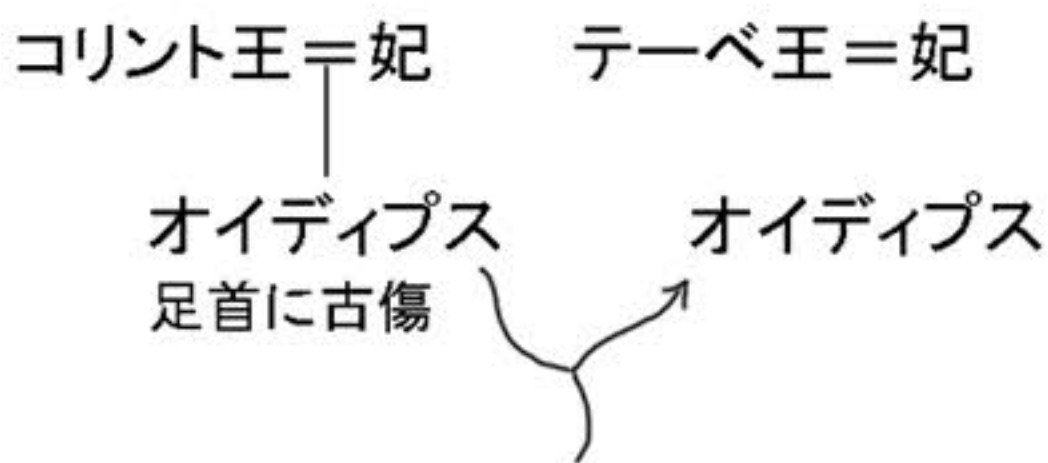
▲ヘクトールを引き回すアキレウス



▲トロヤ戦争



## ソフォクレス『オイディプス』



アポロン神の神託

- ・オイディプスは父を殺し、母を妻とする。
- ・テーベ王は息子に殺され、妻を息子に奪われる。



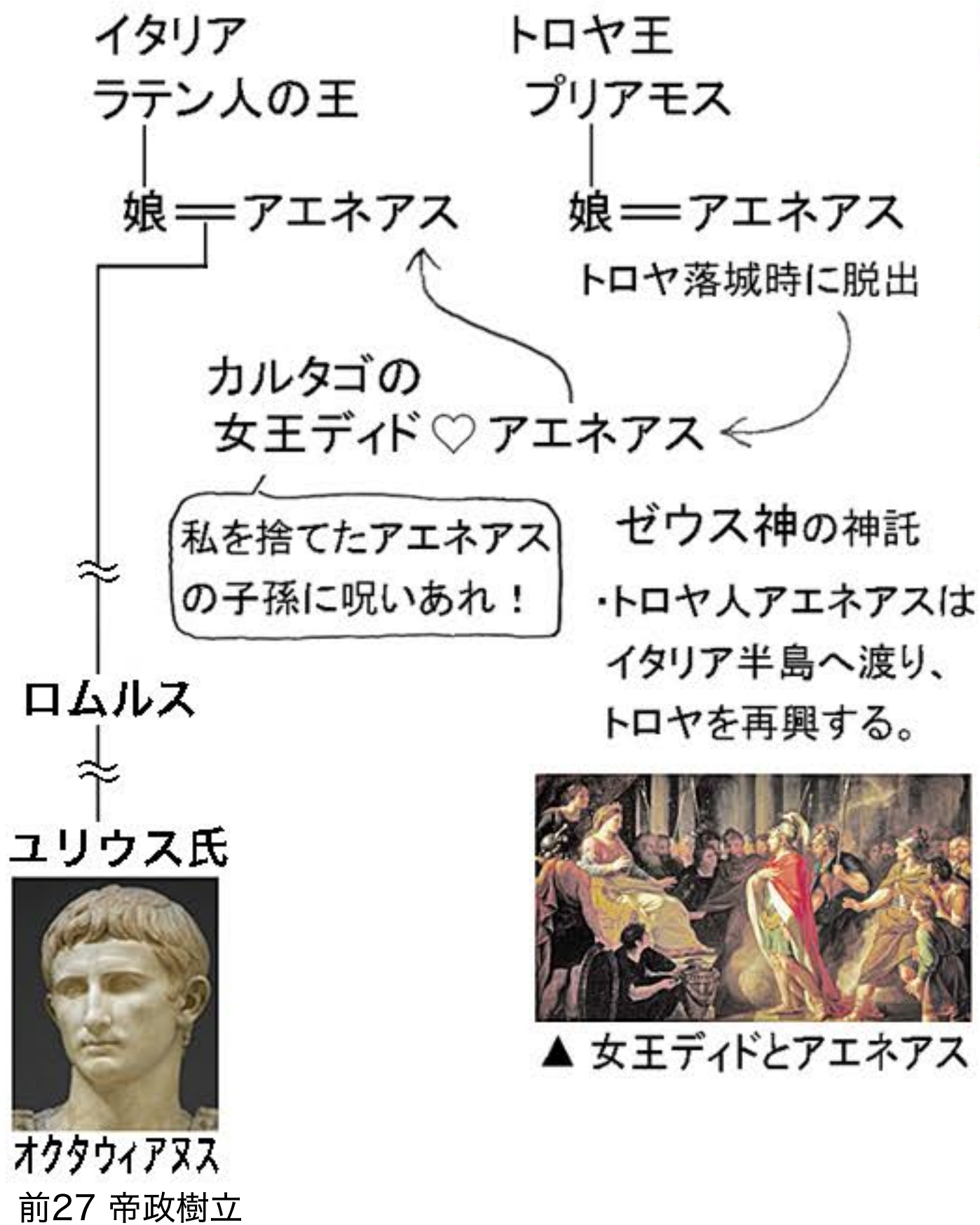
▲老人を打つオイディプス

## ウエルギリウス『アエネイス』



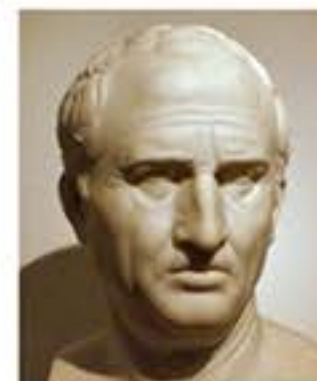
▲アエネアスの航路

トロヤ戦争をテーマとする古代の文学作品について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。  
アイスキュロス『イリアス』  
ウエルギリウス



閥族派(元老院派)

平民派

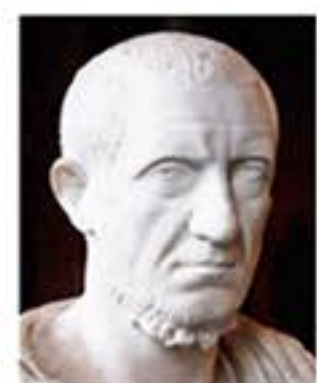


キケロ  
ギリシア文学をラテン語に翻訳

- プルートゥス ★
- ★ アントニウス



カエサル  
『ガリア戦記』



タキトゥス  
『ゲルマニア』  
『年代記』  
で帝政を批判



オクタウィアヌス



ネロ



### ③哲学

#### 前5c- アテネの哲学：ポリス市民の生き方を説く

希<sup>21</sup> \_\_\_\_\_：ソフィスト。真理を否定。“人間は万物の尺度”

希<sup>22</sup> \_\_\_\_\_：普遍的真理を求め、ソフィストを批判。“無知の知”

⇒「若者を惑わした」と告発され民衆裁判で有罪。毒杯をあおって死ぬ。

希<sup>23</sup> \_\_\_\_\_：ソクラテスの弟子。 \_\_\_\_\_ 論と哲人政治を説く。

アテネ郊外に私塾<sup>25</sup> \_\_\_\_\_ 創設。『ソクラテスの弁明』『国家論』

希<sup>26</sup> \_\_\_\_\_：アレクサンドロスの師。リュケイオン(学園)を創設。

万学の祖。『アテナイ人の国制』、『政治学』

#### 前3c- ヘレニズム時代：ポリス崩壊期の生き方を説く

希<sup>27</sup> \_\_\_\_\_：アテネの<sup>ストア</sup>列柱廊で講義。<sup>28</sup> \_\_\_\_\_ 派の祖。

理性重視の禁欲主義と世界市民主義(コスモポリタニズム)

希<sup>29</sup> \_\_\_\_\_：唯物論(ヘテクリトス)に基く快楽主義、個人主義。

#### 前1c- ローマ時代①：ストア派の全盛

羅<sup>30</sup> \_\_\_\_\_：ネロ帝の師で政治顧問。のち自殺を強いられる。

希エピクテトス：解放奴隷の出身。運命の受容との平静を説く。

羅ルクレティウス：唯物論。哲学詩『物の本質について』

羅<sup>31</sup> \_\_\_\_\_：哲人皇帝。ラテン語で『自省録』

#### 3c- ローマ時代②：神秘主義からキリスト教へ

☆新プラトン主義：神秘主義。キリスト教受容の思想的背景。

希プロティノス：超越者(神)の力の流出による世界形成を説く。

羅<sup>32</sup> \_\_\_\_\_：マニ教からキリスト教へ。代表的な教父。

自伝『告白録』、護教書『神の国』

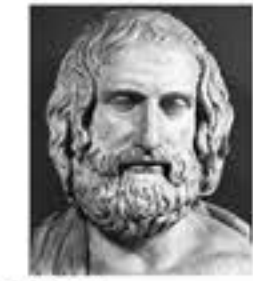


「存在する」←普遍的な真理は→「存在しない」

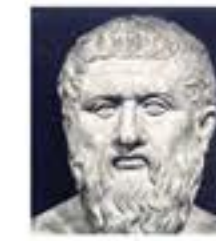
ソクラテス → ★ ← プロタゴラス

- ・無知の知
- ・問答法でソフィスト批判

- ・代表的ソフィスト
- ・「人間は万物の尺度」



アテネの哲学の展開について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。  
イデア論 ソフィスト 万学の祖

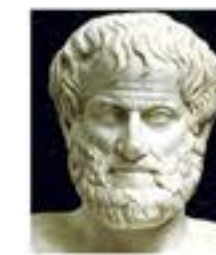


プラトン

- ・私塾アカデメイア
- ・哲人政治
- ・イデア論



▲ 毒杯をあおぐソクラテス



アリストテレス

- ・「万学の祖」
- ・アレクサンドロス大王の師
- ・私塾リュケイオン



▲ ラファエロ「アテネの学堂」

#### プラトンの国家論

個人 国家  
理性 知識人(哲人)

感情 民衆

#### プラトンのイデア論

イデア界

現実界



たま みけ とら

#### アリストテレスの理論

イデア界

現実界



たま みけ とら

#### ストア派(ゼノン)

自然 人間  
理法 理性

物質 感情

#### 新プラトン主義

創造神

イデア界

現実界

#### キリスト教(←ユダヤ教)

唯一神

現実界

(解答) 21 プロタゴラス 22 ソクラテス 23 プラトン 24 イデア

25 アカデメイア 26 アリストテレス 27 ゼノン 28 ストア 29 エピクロス

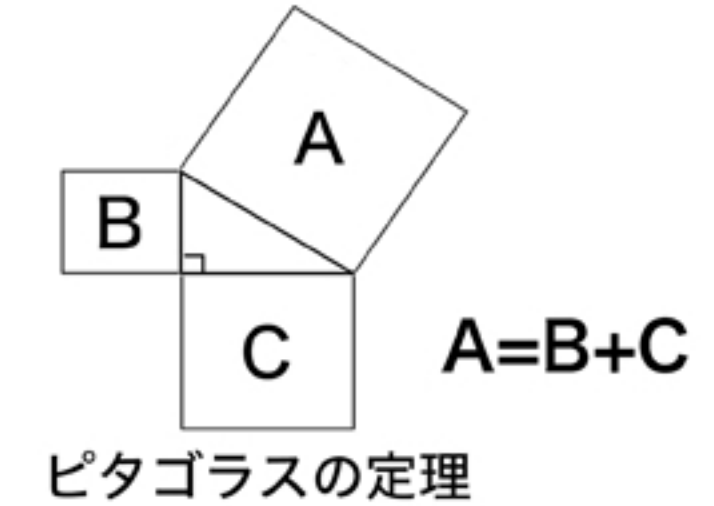
30 セネカ 31 マルクス=アウレリウス=アントニヌス 32 アウグスティヌス



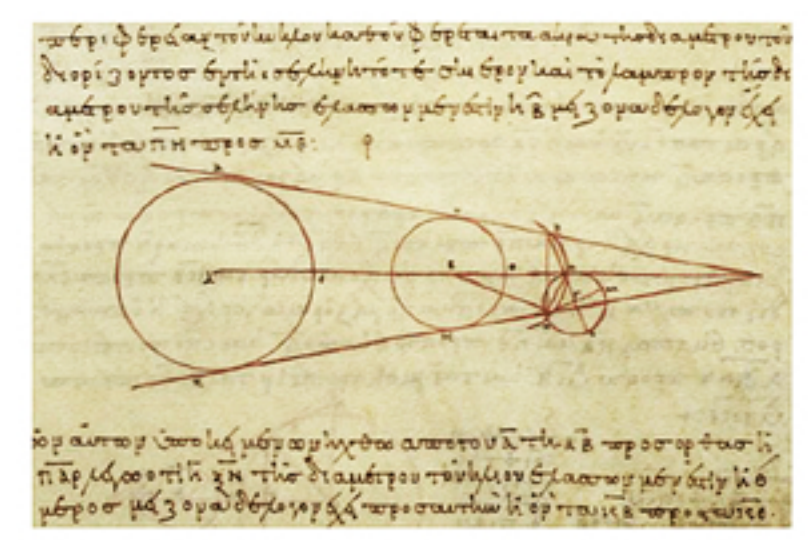
# ④自然科学

## 前6c- イオニア学派 (自然哲学)

- 希<sup>32</sup> : “万物の根源は水”。“哲学の父”
- 希<sup>33</sup> : “万物の根源は数”。直角三角形の定理。
- 希<sup>34</sup> : “万物は流転する” (火⇄空気⇄水⇄土)。
- 希アナクサゴラス : “万物の根源は種子” “太陽は燃える石”
- 希<sup>35</sup> : “万物の根源は原子(アトム)”。唯物論の祖。
- 希ヒッポクラテス : “医学の父”。科学的医学の創始者。



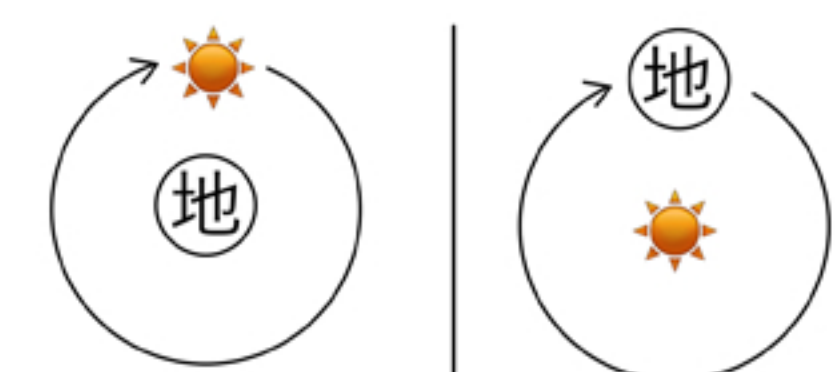
Musa → Mouseion → Museum



## 前3c- ヘレニズムの自然科学

☆エジプトの首都アレクサンドリアの王立研究所<sup>36</sup>が中心。

- 希<sup>37</sup> : 太陽中心の地動説を唱える。(⇄コペルニクス)
- 希<sup>38</sup> : 地球球体説。地球の周囲を約4万kmと計算。
- 希<sup>39</sup> : 平面幾何学の原理 (ユークリッド幾何学)。
- 希<sup>40</sup> : 浮体の原理、円周率。ポエニ戦争で殺される。

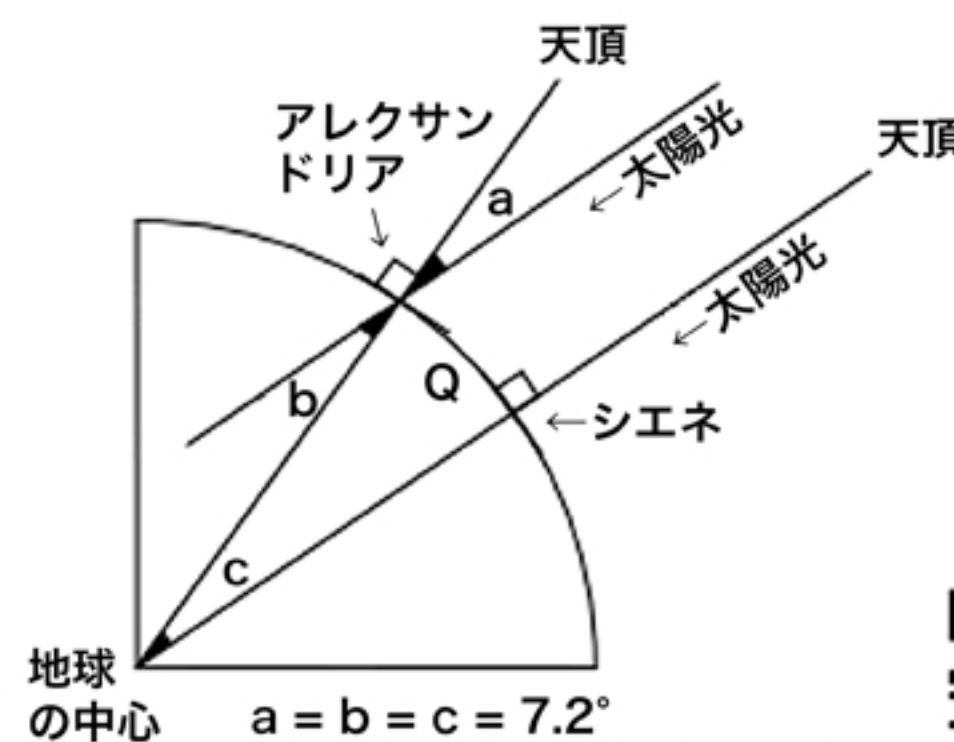
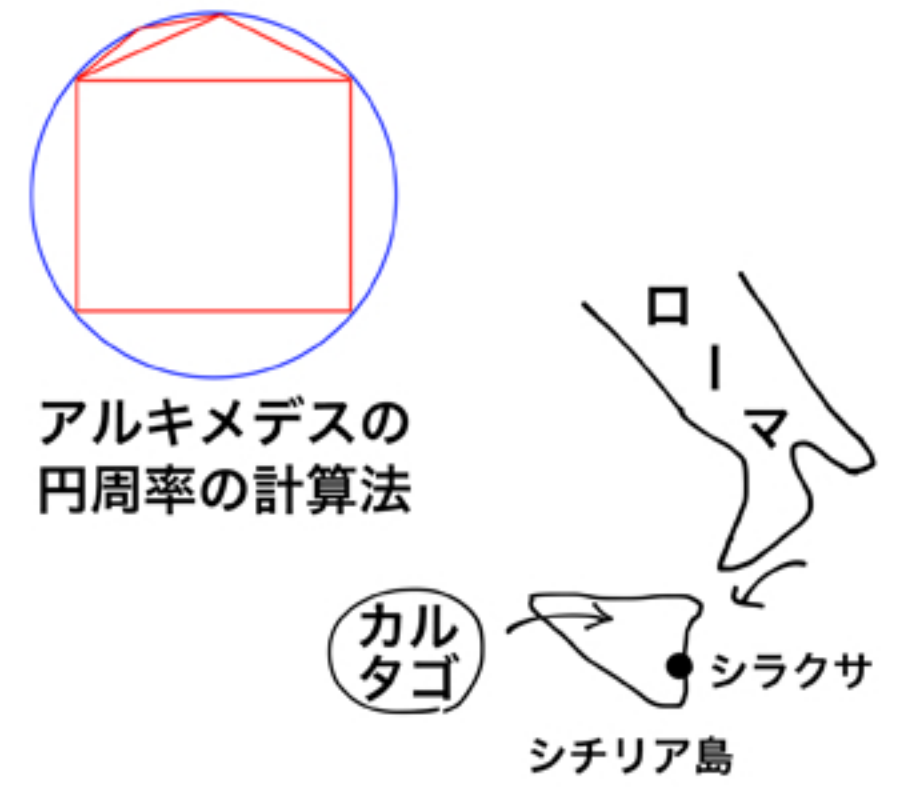


- 天動説(地球中心説)
  - ・プトレマイオス (ローマ時代)
  - ・聖書の記述と合致、キリスト教会が採用
- 地動説(太陽中心説)
  - ・アリストタルコス (ヘレニズム時代)
  - ・聖書の記述と矛盾 異端思想として禁止
  - ・コペルニクスが再評価

## 前1c- ローマ時代の自然科学

☆ユリウス暦 : エジプト太陽暦をカエサルがローマへ導入。

- 希<sup>41</sup> : 地球中心の天動説。『天文学大全(アルmagest)』
- 希<sup>42</sup> : イベリア半島からインドまでの『地理誌』
- 羅<sup>43</sup> : 軍人で科学者。『博物誌』は自然界の百科全書。  
⇒ポンペイを埋没させたウェスウィオス火山の噴火で殉職。



▲ エラトステネスの理論



- (解答) 32 タレス(タレース) 33 ピタゴラス 34 ヘラクレイトス  
35 デモクリトス 36 ムセイオン 37 アリストタルコス 38 エラトステネス  
39 エウクレイデス 40 アルキメデス 41 プトレマイオス 42 ストラボン  
43 プリニウス



# 中世ヨーロッパの文化

☆民族大移動の時代。

羅教父エウセビオス：ニケーア公会議を指導。キリスト教による帝権の正統化（⇨王権神授説）  
『コンスタンティヌス大帝伝』、『年代記』、『教会史』

羅教父<sup>1</sup>\_\_\_\_\_：ヒッポの司教。キリスト教神学を確立。（⇨新プラトン主義）

- ・『告白録』：ギリシア哲学と<sup>2</sup>\_\_\_\_\_教からキリスト教への改宗を告白。
- ・『神の国』：<sup>3</sup>\_\_\_\_\_族の包囲下で、異教徒の非難に対しキリスト教を擁護。

4c末 ギリシア語の『新約聖書』をヒエロニムスが<sup>4</sup>\_\_\_\_\_語訳（ウルガタ共通訳）。

800 カールの戴冠。

☆<sup>5</sup>\_\_\_\_\_ = ルネサンス：9c カール大帝時代のラテン文化の復興。

英神学者<sup>6</sup>\_\_\_\_\_が指導。教会・修道院に付属学校（スコラ）を設置、ラテン語教育。

英神学者アインハルト：フランクの歴史家。『カール大帝伝』

1096- 第1回十字軍。

☆12世紀ルネサンス：アラビア語文献が、イベリア半島のトレドやシチリア島のパレルモでラテン語に翻訳される。  
アリストテレス哲学、エウクレイデス幾何学、イブン=シーナー（アヴィケンナ）のアラビア医学。

☆大学（ユニヴァーシタス）：教授組合・学生組合として成立、人事権・学生に対する裁判権など自治権を持つ。

- ・<sup>7</sup>\_\_\_\_\_：一般教養。文法・修辞・弁証（論理）の文系3科、算術・幾何・天文・音楽の理系4科。
- ・専門科目：神学・法学・医学・人文（哲学）の4学部がある。

仏<sup>8</sup>\_\_\_\_\_大学：12c 教授組合として成立。ソルボンヌ校の神学部は神学の最高権威。

北伊<sup>9</sup>\_\_\_\_\_大学：11c 学生組合として成立。法学（ローマ法・教会法）の最高権威。

英<sup>10</sup>\_\_\_\_\_大学：12c-英の神学の権威。学生寮制。コレギウム（⇨13c ケンブリッジ大学が分離）

南伊<sup>11</sup>\_\_\_\_\_大学：12c-医学（アラビア医学）の最高権威。

獨プラハ大学：皇帝カール4世がベーメン（チェコ）に設立(1348)。ドイツ最古の大学。

☆<sup>23</sup>\_\_\_\_\_式建築。  
：まる円屋根（ドーム）とモザイク画。



▲希<sup>24</sup>\_\_\_\_\_聖堂

（コンスタンティノープル）



▲伊<sup>25</sup>\_\_\_\_\_聖堂壁画

（ラヴェンナ）



▲伊サン=マルコ聖堂

（ヴェネツィア）



☆スコラ学：中世の学問。信仰と理性の対立を招き、**普遍論争**を引き起こす。

・<sup>12</sup> \_\_\_\_\_ 論：“普遍”は実在する。学問の目的はこれを証明することにある。哲学は神学の婢(はたけ)。

英<sup>13</sup> \_\_\_\_\_ : 11-12c スコラ学の父。カンタベリ大司教。ノルマン朝の王と叙任権闘争を展開。

独アルベルトウス=マグヌス：13c パリ大学でアリストテレスを教授。トマス=アキナスの師。“万学博士”。

伊<sup>14</sup> \_\_\_\_\_ : 13c パリ大学教授。キリスト教神学とアリストテレス哲学を融合。

『<sup>15</sup> \_\_\_\_\_ 』はスコラ学の集大成、“学問のゴシック建築”。『対異教徒大全』は護教書。

英ドゥンス=スコトゥス：理性より意思を重視、トマス=アキナスを批判、ウィリアム=オッカムに影響。“精妙博士”。

・<sup>16</sup> \_\_\_\_\_ 論：“普遍”は人間がつくった概念。実在するのは、個々の事物。学問と信仰を分離。

仏<sup>17</sup> \_\_\_\_\_ : 12c パリの私塾で唯名論を説き異端宣告。弟子エロイーズとの“愛の書簡”。

英<sup>18</sup> \_\_\_\_\_ : 13c オックスフォードで錬金術・光学・天文学を研究、地球球体説を説く。“驚異博士”

英<sup>19</sup> \_\_\_\_\_ : 14c オックスフォードで唯名論を説く。

アヴィニヨン教皇に破門され、皇帝に保護される。

☆中世文学：<sup>ぎんゆう</sup>吟遊詩人(トゥルバドール)が口語で語り伝える。11-13cに完成。

仏『<sup>20</sup> \_\_\_\_\_ 』：カール大帝のイベリア遠征と忠臣ローランの死を描く騎士道物語。(11c)

英『<sup>21</sup> \_\_\_\_\_ 』：ケルト人(ブリトン人)の英雄アーサー王と、“円卓の騎士”の物語。(12c)

独『<sup>22</sup> \_\_\_\_\_ 』：フン族の侵攻、ブルグント族の滅亡を背景に英雄ジークフリートの死、妻の復讐を描く。(13c)

(解答) 1 アウグスティヌス 2 マニ 3 ヴァンダル 4 ラテン 5 カロリング 6 アルクイン

7 自由七科(七自由学科) 8 パリ 9 ポローニヤ 10 オックスフォード 11 サレルノ

12 実在 13 アンセルムス 14 トマス=アキナス 15 神学大全 16 唯名 17 アベラール

18 ロジャー=ベーコン 19 ウィリアム=オブ=オッカム 20 ローランの歌 21 アーサー王物語

22 ニーベルンゲンの歌 23 ビザンツ 24 ハギア=ソフィア 25 サン=ヴィターレ

26 ロマネスク 27 ピサ 28 ゴシック 29 アミアン 30 ケルン

☆<sup>26</sup> \_\_\_\_\_ 式建築。

(イタリアが中心)

: 半円アーチ、壁面に彫刻。



▲ 伊<sup>27</sup> \_\_\_\_\_ 大聖堂

☆<sup>28</sup> \_\_\_\_\_ 式建築 (仏・独が中心)

<sup>せんとう</sup> : 尖頭アーチで高層建築。窓にステンドグラス。



▲ 仏 \_\_\_\_\_ シャルトル大聖堂



▲ 同内部



▲ 仏<sup>29</sup> \_\_\_\_\_ 大聖堂

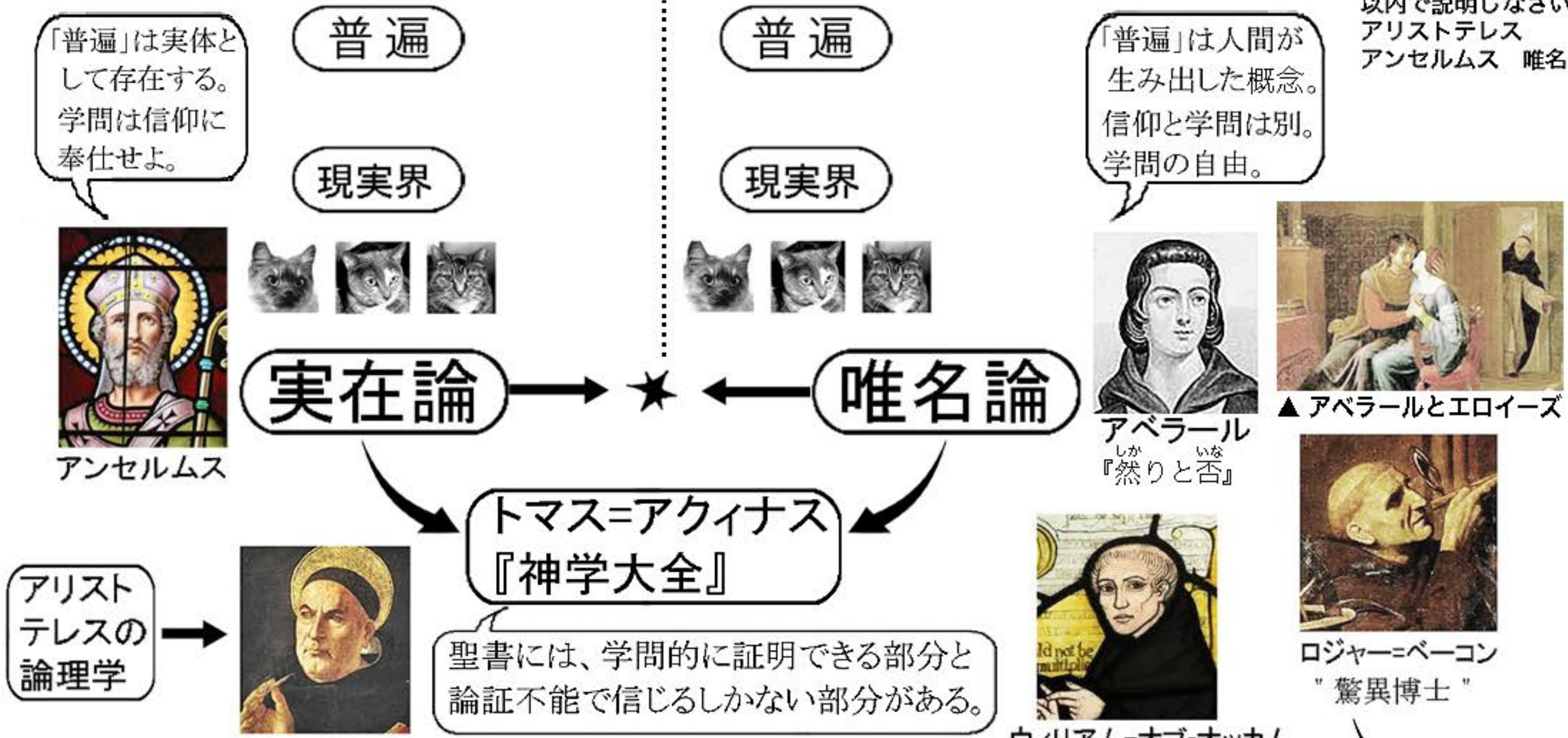


▲ 独<sup>30</sup> \_\_\_\_\_ 大聖堂

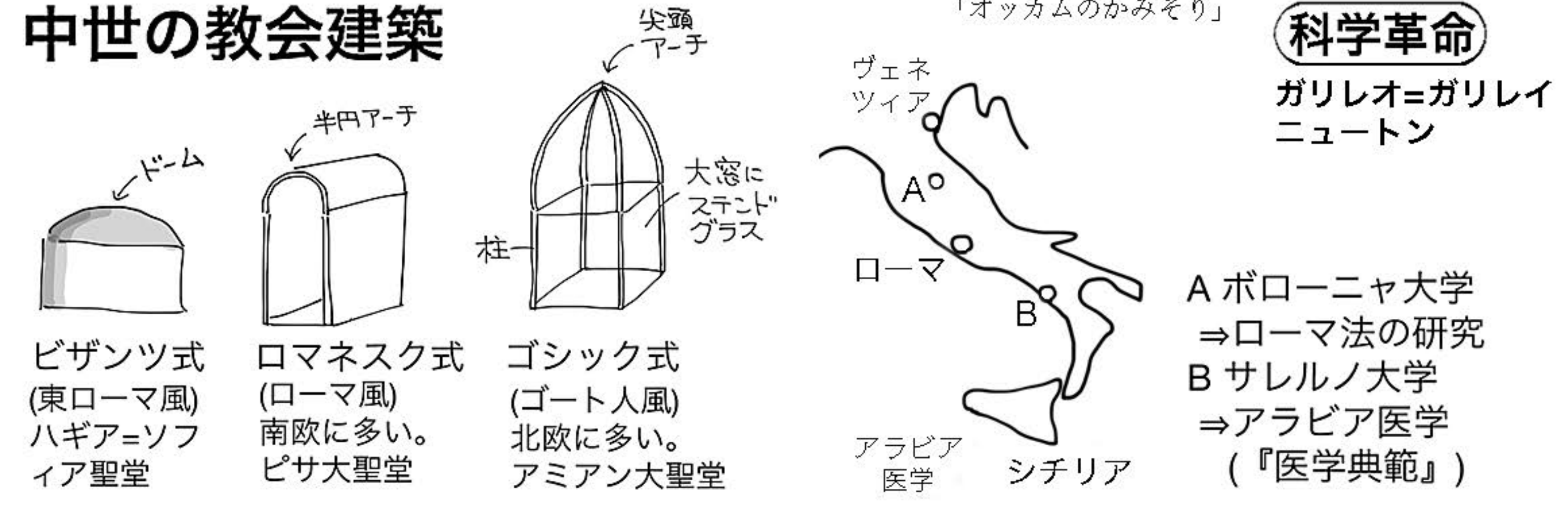


# 普遍論争(スコラ学) ... 「普遍」は実在するか？

スコラ学の展開について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。  
アリストテレス  
アンセルムス 唯名論



## 中世の教会建築



## 中世ヨーロッパ文学

### 『ニーベルンゲンの歌』



▲ 竜を倒すジークフリート(左)  
ジークフリートの死(右)

### 『アーサー王物語』



### 『ローランの歌』



▲ 角笛を手にするローラン